



日本食育学会

一般社団法人日本食育学会主催
2020年度〔特別企画〕

オンライン開催

参加費
無料

食育のピンチをチャンスに！
みんなでつなげる食のレガシー
～これまでとこれから～

2020年

11月29日 (日)

13:00 ~ 17:00 (受付12:30~)

食育の「これまで」を振り返りながら、
「これから」の可能性について
みんなで一緒に感じ考えてみませんか？



プログラム

13:00~13:05	開会挨拶	一般社団法人日本食育学会 会長	田島 眞
13:05~13:10	はじめに	東京家政学院大学 教授/第8回学術大会会頭	田中 弘之
13:10~14:00	講演 1 日本の食文化発進の取組について	内閣官房 東京オリンピック・パラリンピック 推進本部事務局 企画・推進統括官	勝野 美江
14:00~14:10	休憩		
14:10~15:00	講演 2 SDGs と食育	Japan Youth Platform for Sustainability事務局 アドバイザー	大久保 勝仁
15:00~15:10	休憩		
15:10~16:00	講演 3 インターネット時代の食育	クックパッド株式会社 コーポレート ブランディング部 本部長	小竹 貴子
16:00~16:10	休憩		
16:10~16:50	パネルディスカッション	座長 (株式会社食 STORY 代表取締役) パネリスト	米倉 れい子 勝野 美江 大久保 勝仁 小竹 貴子
16:50~	閉会挨拶	一般社団法人日本食育学会 事務局長	日田 安寿美

【事前登録方法】 以下のアドレスにアクセスしていただき、必要事項を申込フォームに入力ください。

https://zoom.us/webinar/register/WN_MUEtA2s0Qv-5X9UnyDIwDg

主 催：一般社団法人 日本食育学会

問い合わせ： <http://www.shokuiku-gakkai.jp/posts/news43.html>

※ なお、学会員の方には録画を後日限定公開予定です。詳細は、学会ホームページInformationでお知らせします。



講演1 「日本の食文化発進の取組について ～東京大会を契機とした食のレガシー～」

勝野 美江（内閣官房東京オリンピック・パラリンピック
推進本部事務局 企画・推進統括官）



2020年に予定されていた東京オリンピック・パラリンピックが1年延期となったが、大会に向けた様々な日本の食文化発信の取組が2021年に花開くことが期待される。大会では持続可能性に配慮した調達基準を満たした食材が活用され、日本の食文化を海外から来た選手の皆さんに楽しんでもらえるようなメニューが提供される予定になっている。大会を機に調達基準に位置付けられたGAP認証を取得する生産者が増加し、全国の農業高校等でもGAP取得が進んでいる。内閣官房オリパラ事務局が2019年度「GAP食材を使ったおもてなしコンテスト」を開催したところ、選手等の受入をするホストタウン自治体と農業高校等の生徒たちが連携して様々なおもてなし料理が提案された。生徒たちの創意工夫ある取組が地域のレガシーとなることが期待される。

【参考資料】

内閣官房オリパラ事務局HP

「東京大会における大会における日本の食文化の発信に係る関係省庁等連絡会議」

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/shokubunka/index.html

内閣官房オリパラ事務局HP「ホストタウン」のページ

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/index.html

ホストタウン専用サイト(世界はもっと一つになれる～Light up HOST TOWN Project)

https://host-town.jp/hosttown_message/ja/

GAP食材を使ったおもてなしコンテスト

<https://gap.onsen-ouen.jp/>

組織委員会「持続可能性に配慮した調達コード」掲載ページ

<https://tokyo2020.org/ja/games/sustainability/sus-code>

組織委員会「東京2020大会における飲食提供に係る基本戦略」掲載ページ

<https://tokyo2020.org/ja/games/food-strategy/>

【プロフィール】

勝野 美江（かつのみえ）

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 企画・推進統括官

博士（生涯発達科学）、徳島県出身。食育基本法制定時に農林水産省で食育を担当。食事バランスガイドの策定、教育ファームの立ち上げなどに携わる。文部科学省科学技術政策研究所では「日米欧における健康栄養研究の位置づけの歴史的変遷に関する調査研究～大学に着目して」等を共同執筆。その後、農林水産省で介護食品の普及、途上国の栄養改善の取組を民間事業者とともに取り組むプロジェクト等に携わった後、和食室長を経て2016年6月から内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局（オリパラ事務局）参事官。2019年7月から現職。オリパラ事務局では、東京大会での日本の食文化発信に関する業務に携わる他、大会に参加する国・地域の選手等が日本の自治体の住民等と交流するホストタウンを担当。ホストタウンでのスポーツ、教育、経済、文化（食、音楽等）など様々な交流を促進し、大会を越えた継続的な絆づくりのための支援を行う。

講演2 「SDGsと食育」

大久保 勝仁 (Japan Youth Platform for Sustainability
事務局アドバイザー)



食育とはなんだろうか、と調べてみると、どの媒体でもおおかた「生涯健康に生きていけるように、その知識や習慣を子どもの頃から身につけられるようにする教育」のことを指しています。確かに、僕の母親のご飯は非常に美味しく、バランスも良く、この上ない食生活をさせてもらい、落ち込んでいる時にご飯の味がしなかったり、楽しい食事は本当に美味しかったり、食べ物の味にはいろんな深さがあることも（幸いにも）知ることができました。しかし、生涯健康に生きるための食事に関してはあまり知らず、「やって見せる」だけでは教育にはならない、という良い例かもしれないかもしれません。

健康に生きるための知識や習慣を身につけるのは大変に大事なことだと思いますが、個人的に食育で注目している一つの側面に食品ロス・食品ウェイストがあります。世界では、食品の総生産量が増えているにもかかわらず、飢餓に陥ってしまう人々が増えており、消費者庁によると日本では毎日お茶碗一杯分の食べ物が捨てられています。「健やかに生きる食の文化や知識・習慣を受け継ぎ、食べられない人々を減らし、食品ロス・食品ウェイストを無くしていく」ための食育は、どう評価されるのが適切なのでしょう。SDGsの評価指標の構造を紐解き、一緒に考えていきたいと思っています。

【プロフィール】

大久保 勝仁 (おおくぼ かつひと)

United Nations Major Group for Children and Youth の都市開発部門アジア統括
一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク事務局理事

持続可能な社会に向けた政策などの交渉における日本の若者代表として、政府国連との交渉、提言を行っている。日本政府と国連の公式セッションで対談し、子どもと若者に向けた 10 億ドル出資するという宣言を得たり、自らが所属するプラットフォームの「次世代の SDGs 推進プラットフォーム」構想が日本政府側に採択され安倍首相自身が 2018 年度末までの実現を宣言し、2020年現在、唯一の日本政府公認ユースプラットフォームとして活動を進めるなど、多くのインパクトを生み出している。2019年末、家業である墨田区の銭湯「電気湯」を継ぐ。

講演3 「インターネット時代の食育」

小竹 貴子（クックパッド株式会社
コーポレートブランディング部本部長）



“毎日の料理を楽しみに”という企業理念であるクックパッドは、1997年に創業した。現在月間利用者数は7,500万人を抱え、70か国以上にも展開を進めている。

利用者のなかでもメインで使ってくれているユーザーは、小さな子どもたちを持つ親たち。わたしたちは常にユーザーの声に耳を傾け寄り添いサービスを展開し、それは創業から変わっていない。

食育に関しても、こうあるべきという正論を伝えるのではなく、生活者に寄り添い、多岐にわたる課題を解決しながら、食への目線をあげていくサポートをしていく世界を作りたいと考えている。

多くのユーザーに使ってもらうために何をしてきたか、これから何をしていくのか。わたしたちの取り組みをお話ししながら、多くの気づきを私も含め得られる時間にしたい。

また、新型コロナウイルス感染拡大により、世界中に起こった“ステイホーム”家で過ごさざる得なくなった環境のなかで、家庭の食に何が起こったか。そして今こそ私たちが何をすべきかについても聞きたい。

【プロフィール】

小竹 貴子（こたけたかこ）

クックパッド株式会社コーポレートブランディング・編集担当本部長

1972年石川県生まれ。関西学院大学社会学部卒。株式会社博報堂アイ・スタジオでWEBディレクターを経験後、2004年有限会社コイン（後のクックパッド株式会社）入社。事業の成長に寄与し、2006年編集部門長就任、2008年執行役就任。2009年、日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2010」を受賞。2012年クックパッド株式会社を退社、独立。2016年4月クックパッドに復職、現在に至る。またホクト株式会社、フリー株式会社といった上場企業の社外取締役も勤める。著書に「ちょっとの丸暗記で外食レベルのごはんになる」（日経BP社）。



パネルディスカッション

座長・コーディネーター：

米倉 れい子（株式会社食STORY代表取締役）

パネリスト：

勝野 美江（内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 企画・推進統括官）

大久保 勝仁（Japan Youth Platform for Sustainability事務局アドバイザー）

小竹 貴子（クックパッド株式会社 コーポレートブランディング部本部長）

【プロフィール】

米倉 れい子（よねくら れいこ）

株式会社食STORY 代表取締役

日本女子体育大学体育学部、共立女子大学家政学部を卒業（管理栄養士）。女子栄養大学大学院を修了。大学卒業後、スポーツ栄養の分野を中心に活動し、北京オリンピックでは日本セーリング連盟の強化スタッフとして栄養サポートを担当。その後、2008年～厚生労働省にて栄養系技官として在籍し、栄養・食育に関する企画立案等に従事。出向した内閣府及び農林水産省では食育を担当。

「第3次食育推進基本計画」の作成、「食育白書」の企画・制作に関わる。

2017年3月に前職を退職し、同年株式会社食STORYを設立。起業後はスポーツチームの栄養サポートをはじめ、スポーツジュニアを応援する保護者向けサイトで料理やコラムを展開中。この他、おおわだ保育園世田谷豪徳寺で管理栄養士を務め、食育に携わる人材の育成などにも着手し始める。

株式会社食STORY <https://shoku-story.co.jp/>

キッコーマン(株)「元気をつくるみんなのごはん」監修 <https://kikkoman-sports.jp/recipe/index.html>